

良心宣言

ジャーナリズム 2018

ペンは負けない カメラは見逃さない

心に、剣より強いペン、カメラの砦を築くため、シンポジウムを開きます。

望月衣塑子

東京新聞記者



撮影・初沢亜利

阿部岳
沖縄県辺野古、高江の米軍基地問題の取材で 2017 年に日本ジャーナリスト会議 (JCJ) 賞。18 年には、著書「ルポ沖縄 国家の暴力」(朝日新聞出版) で日隅一雄・情報流通促進賞奨励賞。

望月衣塑子

2014 年「武器輸出及び大学における軍事研究に関する一連の報道」で第 23 回平和・協同ジャーナリスト基金賞奨励賞。17 年、菅官房長官の森友・加計問題記者会見で、最高 23 回 37 分間、質問を続ける。

阿部 岳

沖縄タイムス記者



撮影・武馬怜子

発言者：柴田鉄治・山田厚史・森広泰平・金井奈津子・須貝道雄・丹原美穂・往住嘉文・ほか

とき

7 月 1 日 (日)

午後 2 時～ (開場 1 時半)

ところ

法政大学

市ヶ谷キャンパス

富士見ゲート 2 階 G201 教室

(会場へのアクセスと地図は裏面)

資料代：500 円

(学生・法大教職員無料)

連絡先：往住 090-4879-1164

丹原 090-8955-6050

ホームページ：<http://kan20.atukan.com/>

本多勝一さんからメッセージ!

人類が自滅を制御するための戦い 本多勝一

地球上の生物の消長を進化学的に見ると、身体の一部が急速に発達あるいは特殊化した生物は、自滅するのも急速だったようだ。逆に発達が遅れたり特殊化しすぎなかった生物は長くいきのびた。

そんな中での現世人類の場合、誕生から今までわずか 20 万年前後にすぎないが、「身体の一部」たる頭脳が「急速に発達・特殊化」した結果として行き着いたのが原爆など核兵器である。人類という生物種は、もはや自滅への断崖にかなり迫っている。これを制御できるか、それとも進化学上の定則に従って滅亡が早いのか。これを制御するためには、ジャーナリストも戦わねばなるまい。

- 主催：・良心宣言実行委員会
・法政大学図書館司書課程
・アジア太平洋メディア情報
リテラシー教育センター
・ユネスコ協賛



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization



UNITWIN Cooperation Programme on
Media and Information Literacy and Intercultural Dialogue



United Nations Alliance of Civilizations



